

[添付書類－1]

廃棄物の海洋投入処分に関する実施計画

1. 廃棄物の海洋投入処分をしようとする期間

平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで

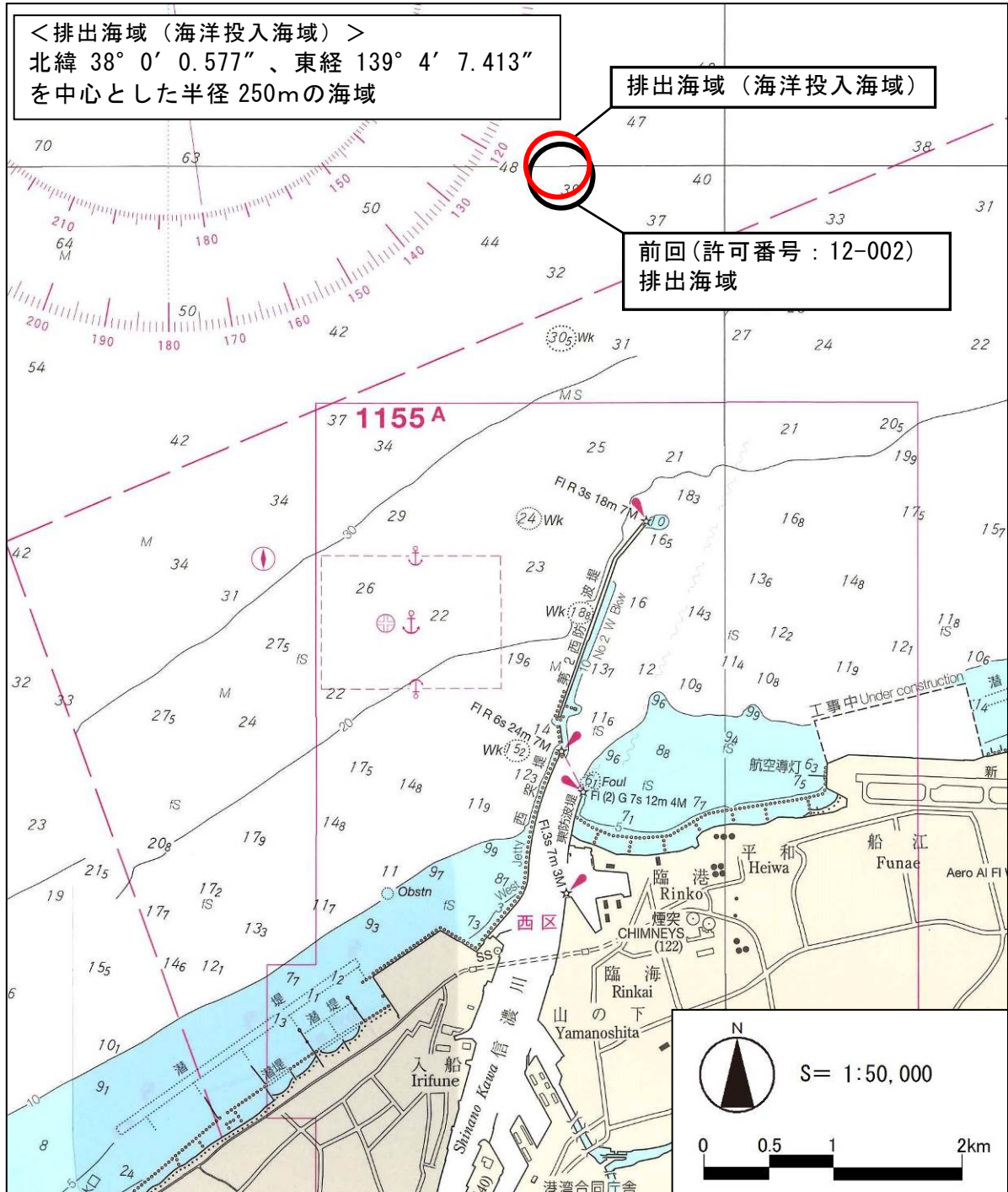
2. 海洋投入処分期間において海洋投入処分しようとする廃棄物の数量

3,200,000m³

3. 単位期間において海洋投入処分しようとする廃棄物の数量

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	640,000m ³
平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	640,000m ³
平成 31 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日	640,000m ³
平成 32 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日	640,000m ³
平成 33 年 4 月 1 日～平成 34 年 3 月 31 日	640,000m ³

4. 廃棄物の排出海域



「海図(W1197：新潟港付近）」（平成 23 年 8 月、財団法人日本水路協会）より作成

図-1 排出海域（海洋投入海域）位置図

【排出海域選定理由】

本申請における排出海域は、「廃棄物海洋投入許可証 許可番号12-002」（許可期間：平成24年4月1日～平成29年3月31日まで）による排出海域から約100m北北西に移動した地点を中心とした半径250mの海域である。

本申請における排出海域については、前回（許可番号 12-002）排出海域における土砂の堆積状況や新潟港西港沖で漁業を営んでいる漁業者との協議により設定した。

5. 廃棄物の排出方法

(1) 浚渫土砂を投入する船舶（ドラグサクション船）

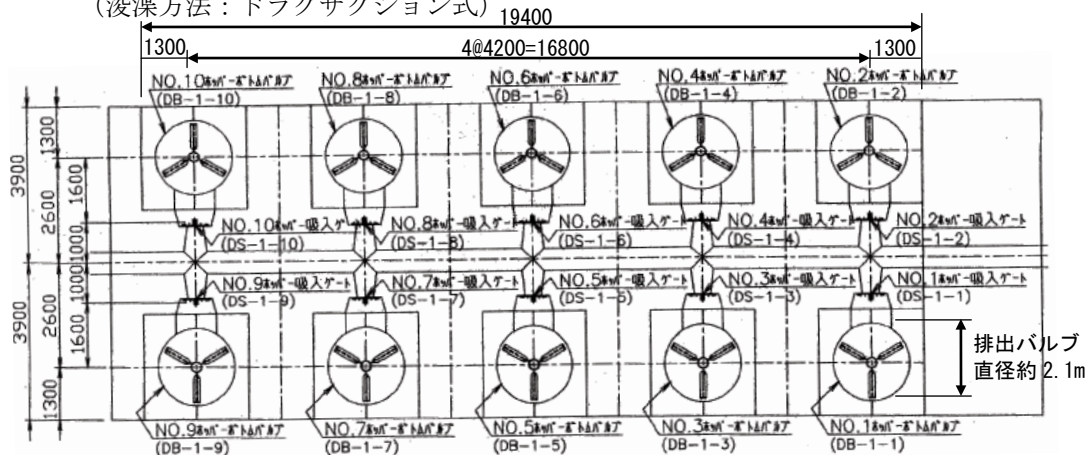
浚渫土砂の排出方法：浚渫した土砂を白山の船内に設置された浚渫土砂をためる場所である「泥倉」に入れたまま、排出海域（海洋投入海域）に運び、船底のバルブを開けて排出する。



大型浚渫兼油回収船「白山」
(浚渫方法：ドラグサクション式)



排出バルブ（マニホールドバルブ）



白山の船底（浚渫土砂排出口）の状況（排出バルブの寸法）

図-2 「白山」船底

<参考>

- ・GPS により位置を確認のうえ排出し、航行中は排出しない。また、排出海域において船倉の洗浄は行わない。
- ・1日あたりの最大投入量は、9,210m³（平成27年度実績より）とする。
- ・1回のサイクル（浚渫～運搬～排出）は、約1時間30分（船舶航行の安全上の観点から土運船との同時投入はない）とする。
- ・排出海域（海洋投入海域）を4分割し、排出海域において排出した土砂が一定の高さで堆積するよう、排出位置を確認しながら排出する。
- ・上記については、日々の最終投入時に「白山」に搭載されている音響測深機により測定し、最浅値を記録する。

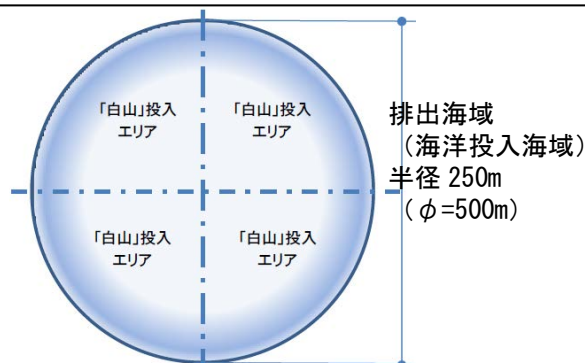
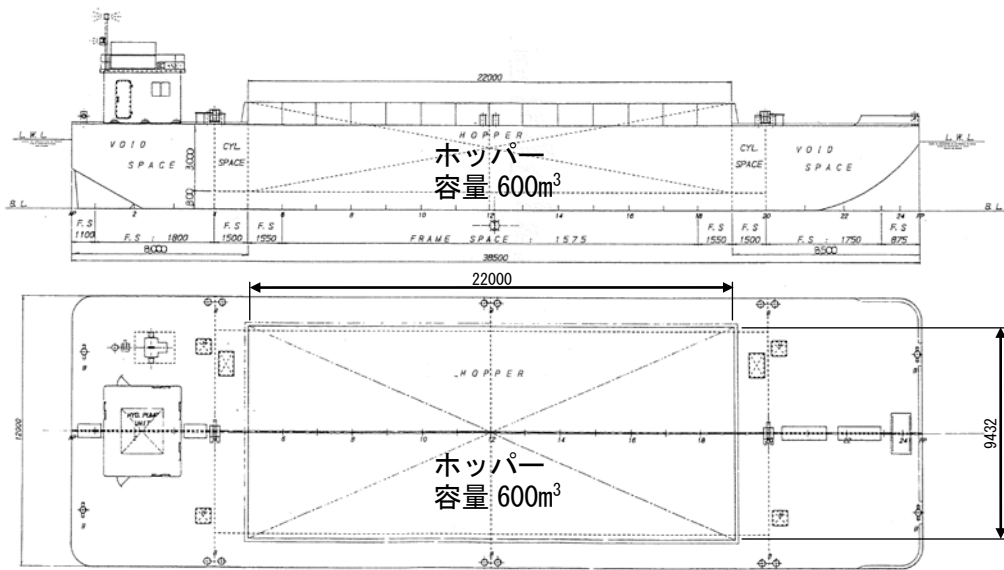


図-3 「白山」による投入箇所

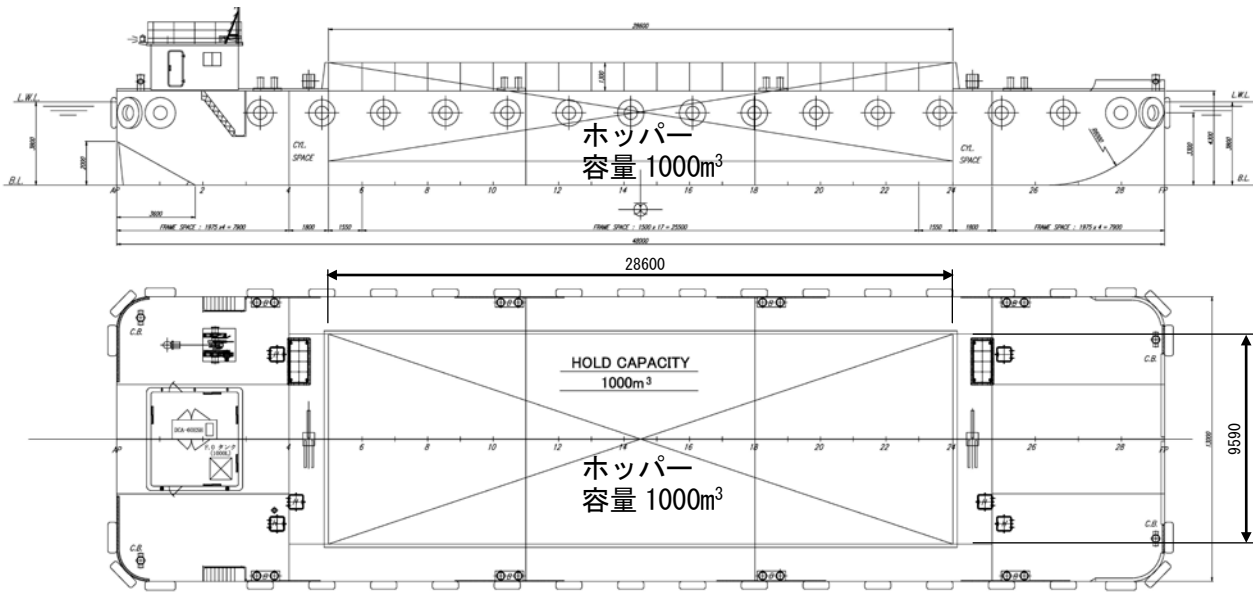
(2) 浚渫土砂を投入する船舶（土運船）

浚渫土砂の排出方法：グラブ浚渫船により浚渫した土砂を下図の全開式土運船に入れ、排出海域（海洋投入海域）に運び、船底を開けて排出する。



全開式土運船のホッパーの状況（ホッパーの寸法）

図-4(1) 全開式土運船構造図（容量600m³）



全開式土運船のホッパーの状況（ホッパーの寸法）

図-4(2) 全開式土運船構造図（容量1,000m³）

注) 基本的には容量600m³の全開式土運船を使用するが、工事の進捗によっては、容量1,000m³の全開式土運船を使用する場合がある。

<参考>

- ・引船のGPSにより位置を確認のうえ排出し、航行中は排出しない。また、排出海域において船艙の洗浄は行わない。
- ・1日あたりの最大投入量は、4,586m³（平成27年度実績より）とする。
- ・1回のサイクル（浚渫～運搬～排出）は、約2時間（船舶航行の安全上の観点から白山との同時投入はない）とする。
- ・排出海域（海洋投入海域）を7つに分割し、排出海域において排出した土砂が一定の高さで堆積するよう、排出位置を確認しながら排出する。
- ・上記については、日々の最終投入時に引船に搭載されている音響測深機により測定し、最浅値を記録する。

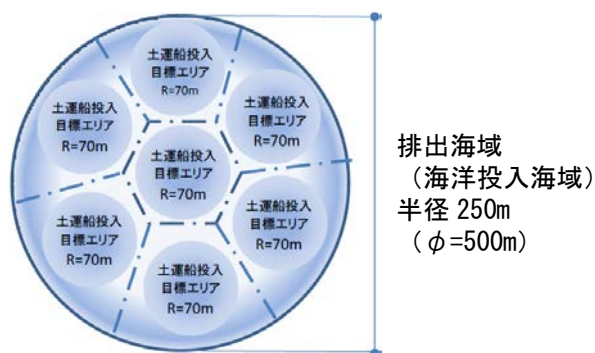


図-5 全開式土運船による投入箇所